





研究者名※	薬袋 奈美子	学位※	博士(工学)
所属※	建築デザイン学部 建築デザイン学科	職名※	教授
連絡先	minain@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://mcm-www.jwu.ac.jp/~minaiken/		
researchmap※	https://researchmap.jp/N_Y_M		
研究分野※	住居学、建築学、都市計画、住環境		
研究キーワード※	まちづくり、防災、生活道路、住教育		
共同研究・競争的資金等の研究課題	生活道路の滞留空間づくりと実現のためのシティズンシップ教育(2017-2021) シティズンシップ力を育む被害軽減教育の開発ー公共的空間をテーマとしてー(2012-2016)		
社会貢献・産学官連携活動等	雑司ヶ谷地域のまちづくりへの参加(雑司が谷・南池袋まちづくりの会、雑司が谷未来遺産推進協議会、NPO法人雑司が谷ひろばくらぶ、豊島区国際アートカルチャー特命大使 他) 川崎市高津区地域コミュニティ施策推進事業(平成23年度～平成28年度) 生田緑地マネジメント会議への参加 NPO法人 地域防災推進機構(副理事長)		
受賞歴	日本建築学会未来を拓く研究と技術開発懸賞論文 佳作(2002)		

研究領域	建築学・都市計画	
研究テーマ※	生活道路の改善	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 最も身近な公共空間である道路の使い方を見直す研究である。近年中心市街地等で、道路状空地や、駐車帯、歩道等を利用して、歩行しやすい環境を整える「歩行者利便増進道路制度」が導入され様々な取り組みがある。しかし多くの一般居住者の住む住宅地内の生活道路は、以前として交通安全対策が中心である。それは特にポラードによる交通規制、シケインやハンプによる交通静音化という方法であり、運転者や歩行者・滞留者の意識・行為に基づく検討ではない。</p> <p>コミュニティ形成の要となる生活道路での立ち話や、子供の気軽な遊びを積極的に増やすことのできる生活道路を設けるための研究である。交通規制の在り方、道路のデザイン、そして居住者の行為・意識の各方面からの検討を行っている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 生活道路での生活行為を許容する環境が整うことで、子育て家庭の孤立を防ぎ、高齢者が在宅で健康長寿となり、災害時の避難や復興におけるコミュニティ力育成にもつながる。</p> <p>既に欧州各国では1970年代から順次、道路を滞留空間としての利用を優先した交通規制が導入されており、多くの住宅地の住環境を様々な年代の人が使いやすい空間に変えている。日本でも、超高齢化社会、子育て環境の改善等の視点から、導入を検討すべき時期に来ている。</p> <p>【研究方法の特色】 地域住民との対話(ワークショップ等)を踏まえて実施するものである。</p>	
本研究関連特許・論文等	・生活道路マスタープランの模擬的な作成(日本都市計画学科都市計画報告集 No19、2021)	
共同研究・外部機関との連携への期待		

研究領域	建築学・都市計画／生活科学	
研究テーマ※	地域の生活を大切にした防災計画策定	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 東日本大震災では、津波からの安全を確保するために防潮堤の建設と高台移転を積極的に行った。それにより、津波の被害にあいにくい場所に居住することができるようになった人も多い。しかし防潮堤があることで、海の様子がわからず避難が遅れた太郎地区の経験、過去の高台移転では次第に人々が海辺での暮らしを再開したことを踏まえると、海辺らしい日常生活の視点を大切にした防災計画には、別の方法もあると考えられる。 小規模な集落等での災害の実態調査等を踏まえた知見から、その地域らしい豊かな日常生活を営むことと、災害への備えを行うことの両立が可能となる土地利用計画を検討する。</p> <p>【応用例、研究の展望】 居住者の生活の豊かさを意識した、災害への備えのある土地利用計画を、住民の方と調査を行いながら検討することが可能である。土地利用計画だけでなく、災害時の避難の在り方等、災害への備えも検討することも可能である。また同時に、地域の生活の豊かさを読み解くことで、地域の独自性を住民の方とともに共有・確認をすることも大事にし、地域の生活空間研究も含めた展開となる。</p> <p>【研究方法の特色】 地域の伝統的な暮らしや、地域に伝わる伝承なども踏まえ、過去の災害を振り返りながら、地形の特色に応じた様々な専門家と連携しながら検討するものである。また地域の日常生活の特色を調査しながら、住民とともに議論し、検討する。</p>	
本研究関連特許・論文等	・漁村の住まいと災害に強い集落形態の研究～秋田県男鹿市戸賀加茂青砂集落を事例として～ (中越 愛, 薬袋 奈美子, 地域安全学会論文集2014年 24 巻 pp133-139,2014)	
共同研究・外部機関との連携への期待		